

クライマックスを見逃すな!!

2026  
JAN.  
Vol.23

商店街応援マガジン

まいど。

商店街は人生。

巻頭カラー!!  
愛と感動の商店街ストーリー

おやっさんとタカヒ  
～前編～

連載  
編集長の独り言



THE INVINCIBLE  
SHISHO RANGER



# おやっさんとタカヒ

## 登場人物紹介



### タカヒ

母と年離れた弟の3人家族。  
母は持病のため長く働くことができず、タカヒが家計を支えている。  
ある日、高収入の広告につられ闇バイトに申し込んでしまい、身柄を拘束されてしまう。  
母と弟のため犯罪に手を染めるわけにはいかないと、命からがら闇バイトのアジトから逃げ出すも、家に帰る手段がなく路頭に迷っているところをおやっさんに救われる。

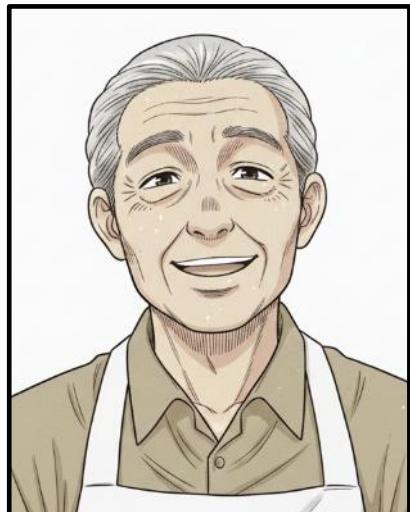


### 編集長

商店街のことが大好きな市役所の職員。  
商店街の振興業務を担当しており、おやっさんたちの商店街にも支援をしている。

### おやっさん

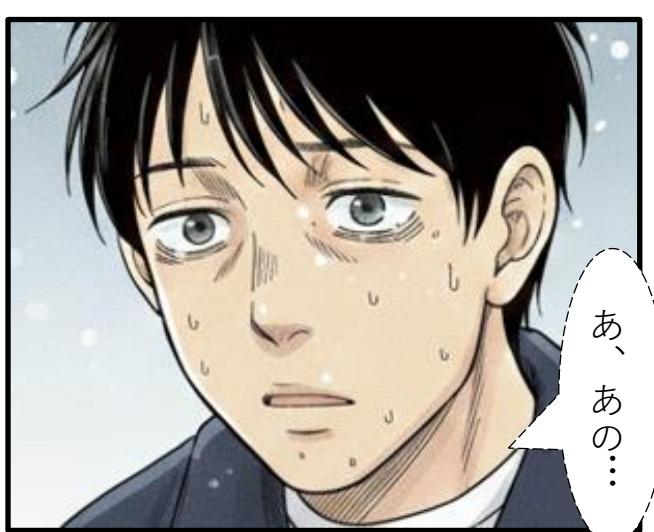
商店街で地域に愛される定食屋「キツネ食堂」を営む、とてもおおらかな人。過去に妻子を亡くしており、今は一人で食堂を切り盛りしている。  
得意メニューは息子が好きだった唐揚げ。  
商店街の活動にも積極的に参加し、地域にとって欠かせない存在。



### あらすじ

ある札幌の冬の日、行き倒れの青年タカヒを救ったのは、地域に愛される定食屋の店主・おやっさんだった。  
店での修行や商店街の活動を通じ、タカヒは地域と繋がる喜びを知っていく。  
そんな中、思わぬ運命がタカヒに襲い掛かる……。  
一人の青年が大切な場所を守るために、葛藤し、成長していく姿を描く感動作。

これはとある商店街で  
起きた愛と感動の物語



飯食うか？

とりあえず  
中に入つて

ありがとうございます。

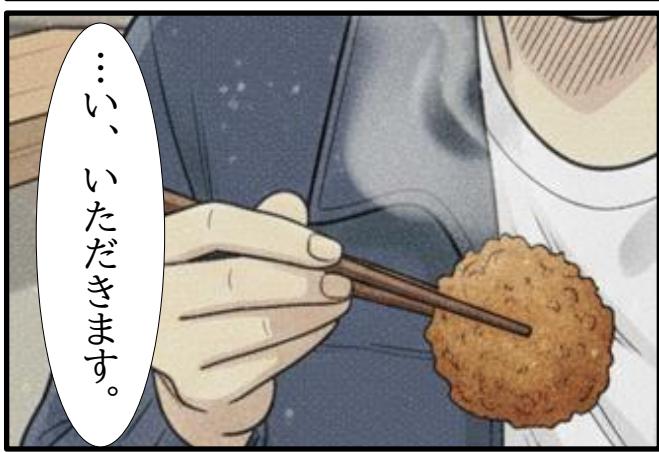
そういうことか。  
少し待つてでもうえるかい？

事情があつて  
しばらく何も食べて  
なくて、それで…



どうぞ、  
召し上がり。





あの、代金は必ず  
お支払いしますので

その代わりと言つちゃ  
なんだけど、うちの店で  
働いてもらえないだろうか？

お金のことは  
気にしなくていい。

働かせてもらえるん  
ですか？

大丈夫。俺が一から  
教えるから安心しな。

でも俺、飲食店で  
働いたことなくて…

俺、タカヒって  
言います！  
よろしくお願ひします！

こうしてタカヒとおやつ  
さんの二人三脚の日々が  
始まった。

おう！こちらこそ  
よろしく頼むよ！

タカヒ

タカヒがおやつさんの  
もとで働き始めてから、  
初めての春を迎えたある日

—あれから  
4か月後—

タカヒ、すまねエが  
俺の代わりに商店街  
の清掃活動に参加し  
てきてくれないか？

わかりました。  
おやつさんは  
ゆっくり休んで  
ください。

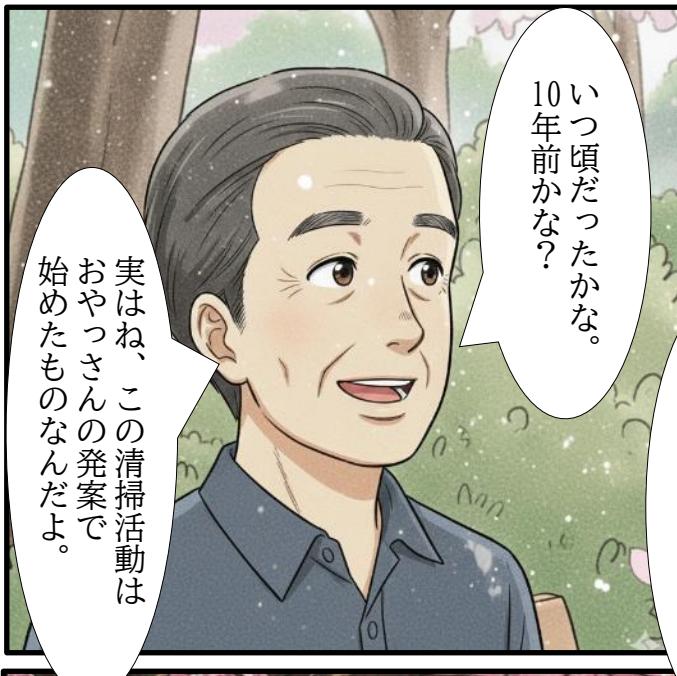
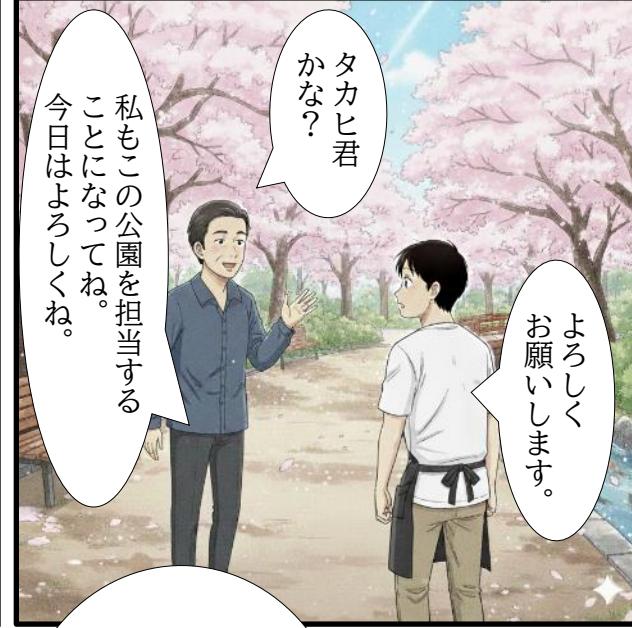
季節の変わり目  
のせいか、  
あまり体調が良  
くなくてな…



あっ、あれは商店街  
の人たちかな？







— さらに2か月後 —

今日はいろいろと  
ありがとうございました。

また来年も絶対  
参加します。

来年もよろしくね。

タカヒ、初めての  
清掃活動は  
どうだった？

すごいゴミ  
で…

商店街の人たちが地域を支えてくれて  
いることに感銘を受けたタカヒは、  
おやつさんに今日あつたことを勢いよ  
く話すのであつた。

夏祭りに向けて準備を  
進めるタカヒ達

商店街主催の夏祭りに  
参加するからその準備  
を手伝ってくれないか。

はい、  
わかりました。

ある初夏の日

そして迎えた夏祭り当日

どどーおー





おやつさんと息の合った  
コンビプレーで次々に  
お客様を捌いていく。

焼きそば2つ、  
から揚げ3つお  
願いします！



多くの人にぎわった  
夏祭りは大盛況のうち  
に幕を閉じた。



あ、編集長さん。  
来ててくれたんだね。



タカヒ、紹介するよ。  
この方は市役所で商店街の  
担当をしてくれている  
編集長さんだ。



初めまして。タカヒさん。  
これからよろしくお願ひします。

こちらこそ  
よろしくお願ひします。

補助金以外にも困りごと  
と一緒に解決する応援隊  
派遣もやってますので、  
お気軽にご相談ください。

それじゃあ私は  
これで失礼します。

それでタカヒ、  
初めての夏祭り  
はどうだった？

こうして決意を新たに  
したタカヒであった。

はい！来年もおやつさんと  
夏祭りやりたいです！

そうだな。あの笑顔の  
ために、また来年も夏祭り  
やろうな。

来年もまたみんなの  
笑顔を見たいです。

とても楽しかったです！  
みんながこの街を好きな  
気持ちがすごく伝わって  
きました。

夏祭りも終わり冬が  
近づいてきたある日  
のこと。





おやつさんの  
お店どうなる  
のかしら…

おやつさんがいなくなつたら  
商店街活動もどうなることやら…

うーん、さすがにタカヒ君  
には荷が重いだろうし、  
お店は閉店するしかないん  
じやないかな…

もうあの唐揚げは二度と  
食べられないのかしらね…

おやつさん、  
俺は一体どうすれば…

葬儀が終わり、厨房で  
呆然と立ち尽くすタカヒ

タカヒ、  
みんなの笑顔を  
守ってくれ



おやっさん、見てください!!  
俺がこの店を、みんなの笑顔を  
守り抜いてみせます!!

そうだ!  
俺はみんなの笑顔のために  
頑張るつて決めたんだ!



To be  
Continued...

※本マンガのストーリーは完全オリジナルですが、イラストは生成AIに作ってもらいました。

## 編集長の独り言 #23

1人、店に残されたタカヒ。悲しみに暮れる暇もなく、店を再開するも、一人で切り盛りする厨房は想像を絶する戦場だった…。

「クソッ、おやっさんはこんなことを1人でやってたのかよ…！」

そんな時、目の前に現れたのは、市役所の編集長という名の「おせっかい」と、おやっさんが長年この街で育んできた信頼という名の「追い風」だった。果たしてタカヒの未来に光は射すのか…。

次回、『タカヒ、白エプロンに誓う。』の巻

…おやっさんの唐揚げが、ちょっと焦げそうな予感である。



後半へ、続く。

求む!